

令和8年度全国病弱特別支援学校長研究協議会

特別支援学校（病弱）の学びを豊かにするための デジタル学習基盤の活用

令和8年6月26日（金）

福島県立須賀川支援学校 菅野 美恵

福島県にある特別支援学校

◇視覚障がい特別支援学校	1 校		
◇聴覚障がい特別支援学校	1 校	分校	3 校
◇知的障がい特別支援学校	1 1 校	分校	1 校
(国立)	1 校		
(市立)	1 校		
◇肢体不自由特別支援学校	2 校		
◇病弱支援学校	1 校	分校	4 校

1 8 校 8 分校

本日の話題

病弱の児童生徒の学びを豊かにするための
デジタル学習基盤活用実践

1

須賀川支援学校の
概要

2

授業でのデジタル学習
基盤活用実践事例

3

成果と今後に向けて

1 須賀川支援学校の概要

各地区の医療機関と連携し、病弱教育の充実を目指して

1 須賀川支援学校の概要

福島県唯一の、病弱教育を行う特別支援学校



1 須賀川支援学校の概要

本 校

【小・中学部、高等部】



小・中学部



高等部



わかくさ学級

- ☑福島県須賀川市に位置し、国立福島病院に隣接して学校が整備されている。
- ☑慢性疾患や重度心身障がい、精神疾患の児童生徒が通学・入院しながら学んでいる。
- ☑福島病院に入院している重度心身障がいの児童生徒は、わかくさ学級とし、病院併設の教室とベッドサイドで学習を行っている。
- ☑令和4年の地震で被災し、ブレハブ校舎と国立福島病院の旧看護学校を借用している。
令和9年9月末ごろ完成予定。

1 須賀川支援学校の概要

医大校

【小・中学部】



- ☑福島県福島市に位置し、福島県立医科大学附属病院内にある。
- ☑慢性疾患で入院加療の必要な児童生徒や退院したが復学には体力面で難しい児童生徒が通学・入院しながら学んでいる。
- ☑校舎内や病棟の学習室、ベッドサイドで学習を行っている。

1 須賀川支援学校の概要

郡山校

【小・中学部】



校舎内学級



病院訪問学級

- ☑福島県郡山市に位置し、校舎内学級と近隣の（一財）太田西ノ内病院内に病院訪問学級がある。
- ☑慢性疾患や精神疾患をもつ児童生徒が通学・入院しながら学んでいる。
- ☑病院内訪問学級は、病院内の教室やベッドサイドで学習を行っている。

1 須賀川支援学校の概要

須賀川支援学校郡山校について

校舎内学級

- ・ 準ずる教育課程から知的障がい教育課程まで、幅広く柔軟に対応している。
- ・ 不登校の経緯や発達障がいの特性の特性がある児童生徒が多く在籍している。
- ・ 児童生徒は、集団に苦手さがあり、自分のペースで個別に学習することを強く希望する傾向がある。
- ・ 体調や精神的な波が大きく、毎日登校できる生徒は少ない。

病院訪問学級

- ・ 準ずる教育課程に対応している。
- ・ 病院内に設置された病院訪問学級や、病室のベッドサイドで指導を実施している。
- ・ 退院後は、前籍校に戻るため、前籍校との連携・帰属意識を大切にしている。
- ・ 治療を優先したスケジュールにより、日々の学習時間には制限がある。
- ・ 活動可能な空間には、制限がある。

1 須賀川支援学校の概要

郡山校における課題



個別での指導体制が中心

集団に対する苦手意識や
ベッドサイド学習などで、
個別指導体制が多く、やり
とりが「教師と児童生徒」
のみになることが多い。



知識の一方的な習得

学習時間が限定されている
ことや直接的な体験や対話活
動を創出することの難しさか
ら「知識・技能」に焦点化し
た指導内容にとどまりがちで
ある。



他者につながる機会が少ない

同世代とリアルタイムに思
考を重ね合ったり、多様な発
想をお互いに認め合ったりす
る協働の機会が乏しい。

2 授業でのデジタル学習基盤活用実践事例

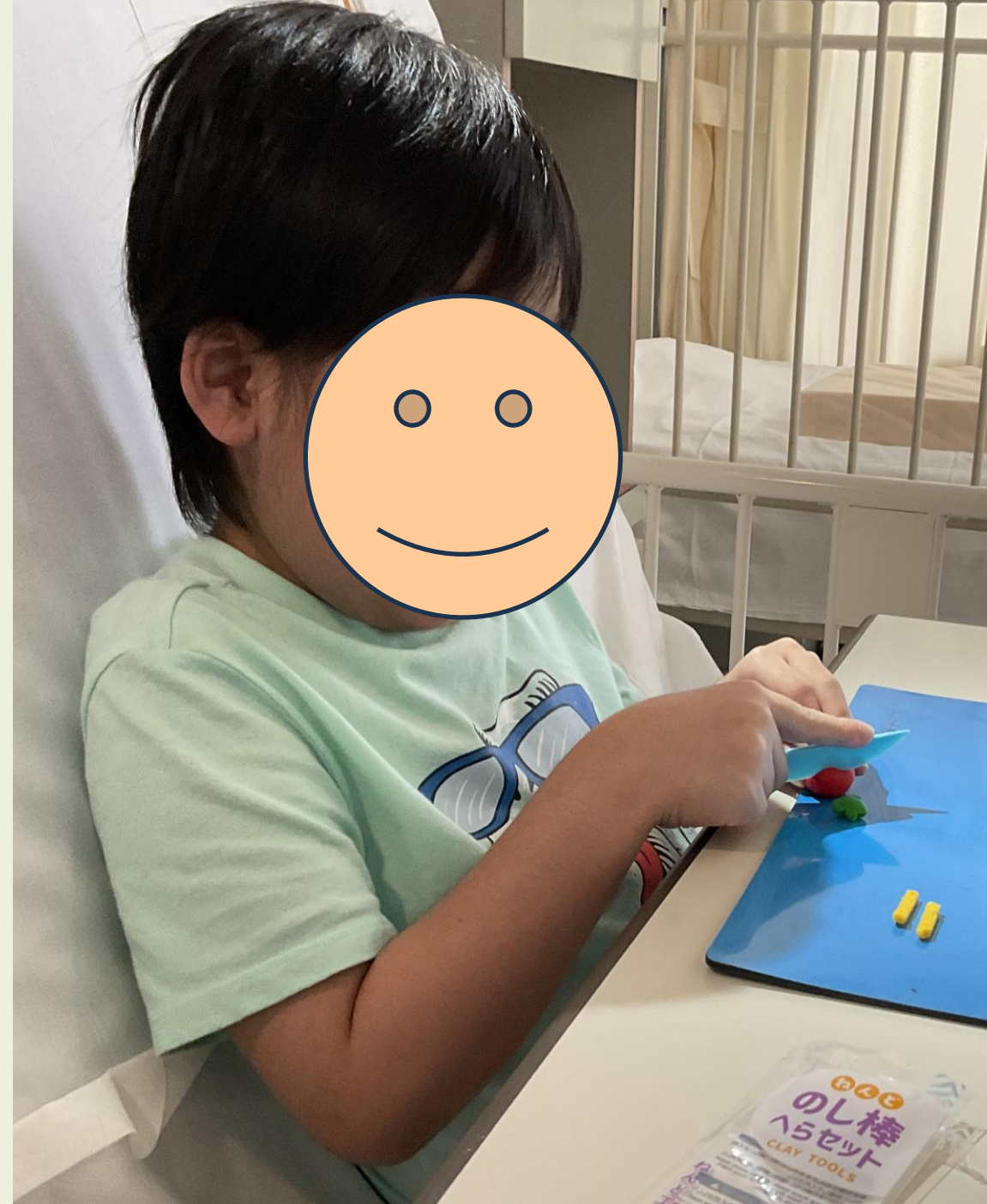
デジタル学習基盤がひらく、主体的な学びと協働的な学びの実現



2 授業での実践事例

事例①: リモート参加による協働的な学び 病室から元の学級とつながる

- 対象生徒:** 小学2年・自己免疫疾患 病院訪問学級
(感染リスク回避のため完全ベッドサイド学習)
- 学習題材:** 図画工作「にぎにぎねん土」
(衛生面に配慮し油粘土を小麦粉粘土に変更)
- 学習環境:** 前籍校で使用していたタブレット端末を転出後も継続して使用し、クラウド型授業支援システムを活用
- 実践内容:** 前籍校の友達が制作した作品写真をクラウド上に保存してもらい、それを閲覧することで鑑賞し学びを共有



事例①: 児童の意識と心理的変容

友達の表現を感じとる鑑賞体験

友達の作品画像を見て、「〇〇さんはこういうのを作ったんだね」「たしかにそう見えて面白い」など作品を通して元のクラスメイトの**表現意図や人柄を感じ取りながら**、自分の作品を制作した。

友達との対話やクラスの過去のエピソードを起点にイメージをふくらませ、**生き生きと創作に打ち込む姿**が見られた。

帰属意識と治療へのポジティブな力

「自分の作品もクラスの友達に見てもらいたい!」と意欲をもち、完成後にタブレット端末で撮影してクラウドに提出した。元のクラスメイトから好意的なコメントをもらって大いに喜んだ。

前籍校とつながっているという確かな実感がリハビリや辛い治療へ前向きに向き合う生命力、学習意欲へとつながった。



2 授業での実践事例

事例②: 仮想空間とアバターによる授業

心理的な障壁をアバターで越える

- 対象生徒:** 中学3年・不登校期間があり、対人関係に強い苦手さをもつ校舎内学級の生徒
- 学習単元:** 中3理科「地球と宇宙 - 宇宙の広がり」
- 空間の工夫:** 抽象的で把握しにくい宇宙空間や各惑星の重力を視覚的に体験できる仮想空間（メタバース）を採用
- 授業アプローチ:** アバターを通じて仮想環境に入り、他の生徒を意識しながら学ぶことができるように工夫した。



2 授業での実践事例

事例②: 実感的な探究と他者を意識した学び

仮想実験による「探究的な学び」

惑星による重力の違いをアバターの「ジャンプ到達高」や「ボール落下スピード」の変化によって体験的に理解した。単なる机上の暗記ではなく、条件を整理・比較しながら主体的に法則性に迫る、質の高い学びが生まれた。

アバターだから生じた「対話的な学び」

現実の対人対話には強い苦手さがある生徒だが、仮想空間のなかで他の生徒（アバター）の動きに寄り添い、自然に同期し合って学びを追究した。

直接言葉を交わさずとも、**相手の存在を豊かに意識しながら学びを共有し合う**という、新しい共生とコラボレーションが実現した。



2 授業での実践事例

事例③:VR ヘッドセットを活用し 断層観察した授業

実体験を補完する360度体験

- 対象生徒:** 中学1年・潰瘍性大腸炎 病院訪問学級
病院内の教室まで移動し、学習が可能。
- 授業概要:** 中学1年理科「動き続ける大地」において、
病院訪問学級の生徒がVRヘッドセットを装着し、360度断層映像を観察する授業を実践した。
- 実践内容:** 入院中のため野外観察が困難な中、現地にいるような圧倒的な臨場感で地層を立体観察。大地の変動と地震の仕組みをダイナミックに学んだ。教師は、モニターを見ながら映像の解説をした。



事例③: 実感的な探究と心理的な解放

「深い学び」の実現

細部まで観察し、断層のずれ、逆断層に気づき、**教科の目標を達成**することができた。

生徒の言葉を丁寧にひろい、何を見て何を理解したかを捉え、学習を進めた結果、**既習の知識と新しい知識をつながながら**学びを深めた。

心理的な開放感と経験の拡大

「外に出られなくて気持ちが落ち込んでいたが、**出かけたような気分になって楽しかった**」との感想が聞かれた。

直接体験できない制限を、VRヘッドセットの活用が、**豊かな体験へとつなげることが**できた。

3 成果と今後に向けて

デジタル学習基盤が生み出した教育的価値

デジタル学習基盤が生み出す教育価値



主体的な学びへの転換

病気や特性により、身体や物理的な行動範囲に制約があっても、アバター操作や360度映像等の仮想空間でのアプローチによる学びにより、自分で課題を解決しようとする自主的な学びの姿を引き出すことができた。



協働・対話機会の創出

デジタル学習基盤を介し、ベッドサイドと元の教室、または仮想空間を通じたアバター学習により、離れた場所でも他の児童生徒を意識して学習に取り組み、気づきを得たり、自分の考えを膨らませることができた。



心の安定と自己肯定感

活動場所や学習方法の制限があっても「前籍校や友達と繋がっている実感」が、児童生徒の自尊感情・回復への前向きな心を支え、治療や辛いリハビリに立ち向かう原動力となり、心理的な安定を図ることができた。

| 今後に向けて



デジタル学習基盤を単元計画にしっかり落とし込み、「何をどのように学ぶのか」を明確にすること。



「たのしかった」「〇〇に行った気分になった」という体験自体の感想にとどまることなく、児童生徒が予想、仮説、結果、まとめを言語化し、確認することが大切であること。



「主体的に学習に取り組む＝学習の充実」ではないため、教科の目標が達成できるように、評価規準を明確にし、確認と評価をしっかりとっていくこと。

新校舎完成イメージ図



あたたかい言葉で 居心地の良い 学校をつくろう！



ご清聴ありがとうございました

病弱の児童生徒の学びと未来を、デジタル基盤学習が架け橋となり、
さらに豊かな学びにつなげてまいります。



福島県立須賀川支援学校

須賀川市伝統行事 「松明あかし」